

「あいち食育いきいきプラン2025」の「数値目標」に関する最終評価について

◎：目標を達成したもの（4項目）、○：改善が見られるもの（5項目）、△：改善が見られないもの（11項目） 計20項目

1 食を通じて健康な「体」をつくるための目標

(状況…◎：達成、○：改善、△：改善見られず)

項 目	基準年	2021	2022	2023	2024	2025	最終値	状況	目標(2025)	担当課室	評価
○朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合※1	93.2% (2020)	92.6%	90.7%	91.3%	88.9%	89.4%	89.4%(2025)	△	98%以上	保健体育課	「早寝・早起き・朝ごはん」推進運動を継続して行ってきましたが、減少傾向が続きました。今後も子ども、家庭、学校に朝食の重要性を啓発していく必要があります。
○朝食を毎日食べる習慣がある高校生の割合 ※1	86.0% (2020)	85.7%	83.8%	83.0%	81.9%	81.5%	81.5%(2025)	△	91%以上		
○朝食を欠食しない若い世代の割合 ※2	89.1% (2020)	85.4%	-	86.5%	-	84.3%	84.3%(2025)	△	91%以上	健康対策課	若い世代の朝食を欠食する人が増加傾向にあるため、朝食を始めとする正しい食習慣についての更なる啓発が必要です。
○適正体重の小中学生の割合 ※3	88.8% (2019)	87.1%	84.5%	88.3%	87.5%	86.9%	86.9%(2025)	△	91%以上	保健体育課	ほぼ横ばいの結果となりました。養護教諭や栄養教諭、学級担任が連携し、食や運動、生活習慣を振り返り、改善しようとする意識を高めていく必要があります。
○自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践している成人の割合 ※2	32.8% (2020)	34.2%	-	35.2%	-	35.0%	35.0%(2025)	◎	35%以上	健康対策課	啓発等により自分の適正体重を認識し体重コントロールを実践している人の割合は改善しています。
○永久歯にむし歯のない中学生の割合 ※4	80.6% (2019)	81.9%	84.4%	84.6%	85.3%	-	85.3%(2024)	◎	85%以上		むし歯のない中学生は11.1%増加し、目標を達成しています。成人の目標は改善が見られなかったため、今後も歯の健康や口腔機能の維持に向けた啓発が必要です。
○何でも噛んで食べることができる成人の割合※4	82.0% (2018)	82.3%	81.8%	-	-	-	81.8%(2022)	△	87%以上		
○朝食に野菜を食べている小中学生の割合 ※1	55.9% (2020)	61.9%	61.5%	60.7%	57.9%	58.1%	58.1%(2025)	○	80%以上	保健体育課	バランスの良い食生活の重要性について、児童生徒や保護者へ啓発を行っていますが、朝食での野菜摂取率は上がらず、今後も啓発が必要です。
○毎日3回以上野菜を食べる成人の割合 ※2	17.7% (2020)	17.5%	-	17.3%	-	17.1%	17.1%(2025)	△	20%以上	健康対策課	毎日3回以上野菜を食べる成人の割合は増加していないため、野菜摂取を含めたバランスの良い食事についての更なる啓発や食環境づくりが必要です。

2 食を通じて豊かな「心」を育むための目標

項 目	基準年	2021	2022	2023	2024	2025	最終値	状況	目標(2025)	担当課室	評価
○1日最低1食、家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合 ※2	57.7% (2020)	68.0%	-	65.0%	-	62.4%	62.4%(2025)	○	70%以上	食育消費流通課	毎月19日を「おうちでごはんの日」とし、街頭活動などで啓発を行ってきましたが、2021年度に増加した以降、減少傾向にあり、さらなる啓発が必要です。
○農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合（名古屋市を除く） ※5	77.8% (2019)	69.8%	71.1%	73.0%	72.9%	70.2%	70.2%(2025)	△	80%以上	食育消費流通課 保健体育課	コロナ禍で大きく落ち込んだ後、増加傾向にありますが、基準年の水準まで回復していません。体験活動の授業時間数減少等の状況の中、地域等の協力・連携について検討が必要です。
○県等が実施するイベントや農林漁業体験の参加者数 ※6	14.6万人(2019)	13.6万人	15.0万人	16.8万人	16.5万人	14.2万人(推定値)	14.2万人(2025) (推定値)	△	18.5万人以上	農政課	コロナ禍の収束に伴い、後半は回復傾向だった。しかし、夏季の暑さや少子化の影響等により想定より増加しなかったため、運営手法や参加者確保の工夫が必要である。
○郷土料理等の食文化を家庭や地域で次世代に伝える人の割合 ※7	41.2% (2020)	47.2%	37.3%	45.5%	44.9%	41.7%	41.7%(2025)	○	50%以上	食育消費流通課	改善傾向にありますが、目標に達していません。今後も地域の食文化について学ぶ機会の充実を図るとともに、その継承について啓発が必要です。

3 食を通じて「環境」に優しい暮らしを築くための目標

項 目	基準年	2021	2022	2023	2024	2025	最終値	状況	目標(2025)	担当課室	評価
○無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合 ※7	45.8% (2020)	47.6%	52.3%	54.4%	53.4%	56.7%	56.7%(2025)	◎	50%以上	食育消費流通課	県では2022年2月に食品ロス削減推進計画を策定し、食品ロスの削減に取り組んでおり、目標を達成しました。
○学校給食において全食品数に占める県産食品数の割合 ※1	40.4% (2020)	38.2%	38.0%	38.1%	36.0%	34.7%	34.7%(2025)	△	45%以上	保健体育課	価格高騰、天候不順等により、思うように確保できないといった現状がありますが、今後も継続した県産食品活用の推進が必要です。
○学校給食において年間に使用した県産食品の種類 ※1	55種類 (2019)	58種類	59種類	55種類	54種類	-	54種類(2024)	△	60種類以上		
○県産農林水産物を優先して購入する県民の割合 ※2	15.4% (2020)	13.3%	-	18.6%	-	19.6%	19.6%(2025)	○	25%以上	食育消費流通課	目標には至りませんでしたが改善傾向にあり、徐々に優先購入する割合は高まっています。

4 食育を「支える」ための目標

項 目	基準年	2021	2022	2023	2024	2025	最終値	状況	目標(2025)	担当課室	評価
○食育推進ボランティアから食育を学んだ人数※6	11.1万人(2019)	2.7万人	5.7万人	4.5万人	6.8万人	9.5万人	9.5万人(2025)	△	12万人以上	食育消費流通課	コロナ禍で大きく落ち込んだ後、増加傾向にありますが、目標には達しませんでした。活動の充実を図るため、今後、新規ボランティアの確保を進める必要があります。
○食育推進ボランティアと学校・企業等との連携回数 ※6	227回 (2019)	287回	289回	352回	316回	409回	409回(2025)	◎	240回以上		行政や各種団体等の連携した食育活動が定着してきたことにより、回数が増加し、目標を達成しました。
○「いいともあいち運動」を知っている人の割合 ※2	22.7% (2020)	24.2%	-	22.2%	-	26.9%	26.9%(2025)	○	28%以上	食育消費流通課	目標には至りませんでしたが改善傾向にあり、徐々に認知度は高まっています。